

## 令和3年度 地域活性化助成事業 実績一覧表

### 【第1部:前期】

No.	団体名	推薦市町村	事業名	事業内容
1	お父ring沖縄	那覇市	新しい父親がみんなのヒーローになる。「お父ringマイスター」養成事業	「父親」について体系的に学ぶ機会を設け、「子育て」「働き方」「地域づくり」を正しく理解する「お父ringマイスター養成講座」を開催した。本事業を通して、主体的に子育てに参画し、新しい父親のあり方について普及啓発する「お父ringマイスター」を2名養成することができた。
2	おもろまち自治会	那覇市	おもろまち想火	地域住民で制作したランタンを灯すイベント「おもろまち想火」の開催を予定していたが、コロナの影響で中止となった。また、那覇市制100周年を記念し、地域の戦跡「シュガーローフ」にアジサイを植樹するイベントを実施するとともに、おせっかい協会の高橋理事長によるトークセッションを通して、住民の繋がりによる「共助」の大切さを再認識できた。
3	広栄自治会	浦添市	独居老人見守り事業、研修会実施	独居老人見守り体制の構築を目的として、活動の在り方を地域住民で考えるための講演会、ワークショップを開催した。本事業を通して、地域の独居老人の状況把握及び情報の共有ができ、自治会員の資質向上などに繋がった。
4	沖縄県認知症行方不明者家族の会	浦添市	SOS認知症行方不明防止模擬訓練 SAM (通称:サム) -Sketch of Anchor Mapping2021-	専門家を招聘し、認知症行方不明防止に係る講座及び実践模擬訓練を実施した。本事業を通して、地域住民と危機感共有の仕組み作りを共有し、高齢者が安心して暮らせるまちづくりモデル構築に向けた行方不明者捜索のネットワーク基盤づくりに繋がった。
5	地産地消・食育の日実行委員会	糸満市	糸満市観光農園地産地消・食育の日活性化事業	「食」と「農」への理解促進を目的に、食育講習会及び食の体験イベントを開催した。講習会では、地元の高齢者と若い世代が交流しながら、手作りの大切さを伝えることができ、また、農家との触れ合い体験では、農業を身近に感じてもらった。本事業を通して、参加者に「地産地消の大切さ」を共有することができた。
6	みんなのあそびば	沖縄市	子どもと大人のみんなのあそびば～Yume's Smile Kitchen～	食を通じて、誰でも気軽に集まることができる場を提供することを目的として、体験型イベント及び子ども食堂を併せて開催した。本事業を通して、誰でも気軽に子ども食堂に行けることを周知することができ、また、地域の人が多く関わることで、地域の居場所づくり、地域交流の場づくりを行うことができた。
7	南桃原自治会	沖縄市	個性豊かで住みよい地域社会を構築するための地域活性化事業～新たな景観から、さらなる住みよいまちへ～	地域の小学生とシニア世代の世代間交流を目的として、南桃原公民館公園を活用した新名所「あじさい園」づくりを実施した。併せて、小学5年生を対象に地域の散策及び勉強会を実施することで、地域への理解を深めてもらい、地域愛の醸成に繋げることができた。
8	伊計自治会	うるま市	伊計島憲章制定事業	伊計島憲章の制定を目指し、地域住民を対象としたワークショップを開催した。ワークショップでは、住民が改めて地域のことを考えるきっかけとなった。また、憲章を活用し、島外から訪れる人に島の環境・文化を理解してもらうとともに、住民の自然保護及び地域文化の保全意識を高め、次世代への文化継承に向けた機運を高めることができた。
9	保良自治会	宮古島市	保良集落における地域資源発掘・共有化事業	地域資源を発掘し、価値を共有化することを目的とした地域住民によるワークショップを開催した。若者世代の参加もあり、次世代の地域を担うリーダーの卵を発掘することができ、また、地域の課題も共有することで今後の持続可能な地域づくりに繋げることができた。
10	あかゆらぬ花会	南城市	花と緑の豊かな里づくり会議	生物の専門家を招聘し、専門家からのアドバイスを受けながら地域の自然環境の観察会及び勉強会を実施した。本事業を通して、地域の希少生物や水辺の環境への理解が深まり、自然環境保全の意識向上に繋げることができた。

【第1部:前期】

No.	団体名	推薦市町村	事業名	事業内容
11	東村慶佐次区	東村	慶佐次今昔展の開催	区民及び区出身者に協力頂き、個人で所有している古い写真を収集し、デジタル化を進め、デジタル化した写真を活用した「慶佐次今昔展」を開催する。本事業を通し、時代を担う青少年及び地域住民の郷土愛の醸成に繋げる。
12	荻道自治会	北中城村	第34回 荻道展示会	「第34回荻堂展示会」として、農作物展示即売会、地域住民の作品展示、ミニコンサートなどを企画していたが、コロナの影響により、屋外で実施できる「菊の玉造 品評会」に限定して開催した。
13	一般社団法人久米島の海を守る会	久米島町	久米島の海を守ろう！グリーンベルト植栽体験	圃場からの赤土等防止対策の一つであるグリーンベルトとして、島内の子どもたちと一緒にアカバナ（ハイビスカス）の植栽体験を行った。本事業を通して、「赤土」への理解を深めるとともに、環境を保全する心を育むきっかけとなり、島の環境保全に資する人材育成に繋げることができた。

【第1部:後期】

No.	団体名	推薦市町村	事業名	事業内容
1	特定非営利活動法人困窮者支援ネットワーク	那覇市	子どもの貧困対策における学習・生活支援事業	小学生低学年を中心とする子どもを対象に、プログラミングの基礎を学習する講座を開催した。各学校間でプログラミング授業の取り組みに格差があるなか、本講座を通して格差の是正に繋がることが理解できた。また、貧困家庭・ひとり親家庭の子ども達にも学習の楽しさが伝わり、子ども達が将来に向けて、希望を持つきっかけに繋げることができた。
2	豊崎・美らSUN会	豊見城市	豊崎魅力発見・発信ワークショップ	豊崎在住の住民と豊崎に立地する企業を対象に、豊崎の魅力再認識し、情報発信の手法を学ぶためのワークショップを開催した。本事業を通して、住民と企業の交流促進を図りながら、地域の魅力を再認識するとともに、効果的な情報発信の技法を学ぶことで、今後の豊崎エリアの魅力向上に繋げることができた。
3	南風原区自治会	うるま市	後世に伝えたい！勝連南風原区恩人「前浜三良(カッチンパーマー)」プロジェクト	勝連南風原区の恩人「前浜三良(カッチンパーマー)」について学ぶ勉強会を開催し、地域住民で学びを深め、絵本を作成した。作成した絵本を活用し、小学生を対象に読み聞かせを実施し、カッチンパーマーの認知度向上に繋げるとともに、地域の結束を深めることができた。
4	公益社団法人島尻青年会議所	南城市	南城市LoveLocalFoodプロジェクト～地元食材を食べて地域と健康を守る～	食育に関するDVD及びポスターを作成し、南城市の小学生を対象として、給食時間に食育学習を実施した。事業を通して、食の大切さ、生産者への感謝の気持ちを醸成し、地産地消の意識を高めることができた。
5	PTA津波古支部	南城市	第2回津波古こども文学賞募集事業	地域の児童・生徒から作文を募集する「津波古こども文学賞」を実施し、子どもたちの基礎学力の向上を図るとともに、青少年の健全育成に繋げることができた。
6	辺土名大通り会	国頭村	辺土名の魅力いっぱいプロジェクト	地域住民が地元の魅力に気づき、まちづくりに主体的に参加することを目的として、全3回のワークショップを開催した。併せて、地域の魅力を盛り込んだ情報発信ツールの作成を行い、地域住民の人材育成に繋げることができた。
7	一般社団法人スポーツツリズム沖縄	今帰仁村	コジコジボールで姿勢改善	コロナ禍で屋外での運動が減少しているなか、健康維持の増進を目的として、自宅でできるセルフケアの講演及び実技実習を開催した。事業を通して、参加者の健康意識の醸成することができた。

【第1部:後期】

No.	団体名	推薦市町村	事業名	事業内容
8	古知屋村自然を守る会	宜野座村	メーガー洞周辺の環境改善事業	地域の拝所であり、観光体験プログラムとして活用されている地域資源「メーガー洞」において、近年、降雨による土砂の堆積などで環境が悪化していることを受け、専門家を講師に招き、土中環境を改善する手法を学ぶワークショップを開催した。事業を通して、地域の環境保全意識の醸成に繋げることができた。
9	飛び安里研究会	南風原町	飛び安里関連事業	南風原の偉人「飛び安里」について、認知度向上を目的とした講演会及びシンポジウムを開催した。シンポジウムでは、「歌声運動」、「創作舞踊」などの音楽・伝統文化を活用することで広く啓蒙し、地域住民の飛び安里に関する理解を深めるきっかけとなった。
10	南風原町PTA連絡協議会	南風原町	子育て講演会	専門家を講師に招き、家庭や地域における子どもとの接し方等について学ぶ講演会を開催した。講演会では、講師の経験で得られたエピソードを通して、子ども達へのアプローチの仕方などの紹介があり、よりよい親子関係を醸成に繋がった。
11	波照間★ロボットクラブ	竹富町	「Let's プログラミングロボット製作♪」波照間プロジェクト	波照間島の中学生を対象に、大学から専門家を講師に招き、ロボット製作に関するワークショップを開催した。事業を通して、学生の問題解決能力や豊かな創造力を育み、青少年の健全育成を図ることができた。

【第2部】

No.	団体名	推薦市町村	事業名	事業内容
1	久米島町	-	田畑づくりから始まる100年先の森づくり	久米島の山林は人との良いバランス関係を保ち里山として機能していた。しかし、高齢化や過疎化、農地継承者問題と共に、地産地消の文化が薄れ里山消失の危機に直面している。 かつての自然と人との良いバランス関係を保っていた里山を再生するために、 ①里山農業に関するワークショップを開催 ②森バスの運航実証 ③官民連携で里山づくりを考えるチームの構築を実施した。地域住民の環境保全の意識や地域への愛着を醸成すること、地域が連携し、地域に根差した継続的な活動に繋げることができた。